

東小金井駅北口まちづくり協議会（第3次） とりまとめ

交通広場や駅前公園、都市計画道路等の整備イメージの検討

概 要 版

平成23年3月

東小金井駅北口まちづくり協議会

目 次

第1章 経緯

- 1 まちづくり協議会の経緯 1

第2章 東小金井駅北口まちづくり協議会（第3次）での検討事項

- 1 検討対象と検討事項 2

第3章 東小金井駅北口まちづくり協議会（第3次）とりまとめ

- 1 交通広場や駅前公園、都市計画道路等の整備の基本方針の検討 3
- 2 交通広場の整備イメージの検討 6
- 3 駅前公園の整備イメージの検討 11
- 4 都市計画道路等の整備イメージの検討 15
- 5 対象範囲全体の整備イメージの検討 20

第4章 今後の対応について

- 1 今後の公共施設の整備について 27
- 2 より良いまちづくりについて 27
- 3 市への提言について 28

第1章 経緯

1 まちづくり協議会の経緯

東小金井駅北口まちづくり協議会（第1次）（以下、「第1次協議会」とする。）では、主にまちづくりのありようや、まちづくりに関する課題が整理され、東小金井駅北口まちづくり協議会（第2次）（以下、「第2次協議会」とする。）では、主にまちづくりの目標が整理されました。これらをうけて、平成21年に発足した今回の東小金井駅北口まちづくり協議会（第3次）（以下、「第3次協議会」とする。）では、交通広場や駅前公園、都市計画道路等、主要な公共施設を中心とした整備イメージについて検討しました。

東小金井駅北口のまちづくりにおいては、平成14年より4年間にわたり第1次、第2次協議会が行われてきました。

第1次協議会では、基本的なまちづくりのありようや、まちづくりに関する課題等の検討が行われ、第2次協議会では、まちづくりの目標やまちの将来イメージ、まちづくりのルール等の検討が行われてきました。

平成17年3月には第1次協議会、平成18年12月には第2次協議会の検討事項や検討結果、課題等が整理された「とりまとめ」がそれぞれ作成されました。

平成14年5月～平成17年3月 第1次協議会 計15回

- ・ まちづくりに関して地権者と協議する場
- ・ 「まちづくりのありよう」の検討
- ・ まちづくりに関する課題の整理

平成17年8月～平成18年11月 第2次協議会 計15回

- ・ 「まちづくりの目標」の整理
- ・ まちの将来イメージの整理（まちづくりのコンセプト）
- ・ まちづくりのルール（用途地域・地区計画）の検討

平成21年5月～平成23年2月 第3次協議会 計12回(見学会を含む)

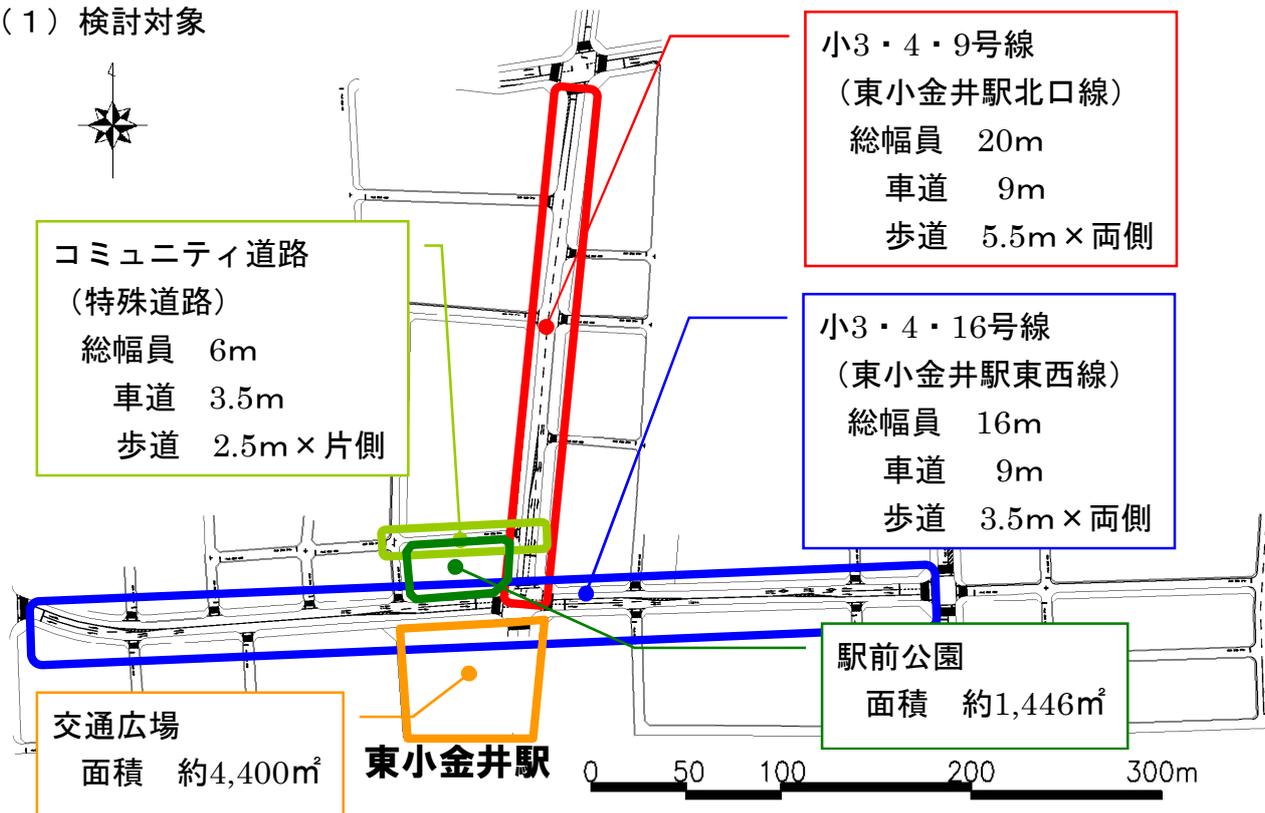
【東小金井駅北口まちづくり協議会の経緯】

第2章 東小金井駅北口まちづくり協議会（第3次）での検討事項

1 検討対象と検討事項

今回の協議会で検討する対象の位置や面積等の基礎情報とそれらについて検討する事項を整理しました。

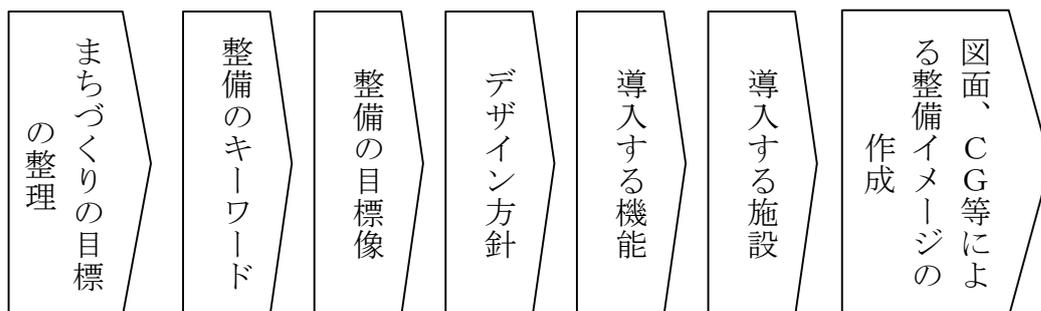
(1) 検討対象



【今回の協議会での検討対象】

(2) 検討事項

第1次および第2次協議会において整理されてきたまちづくりの目標を踏まえ、改めてまちづくりの目標像を整理し、整備にあたってのキーワードや目標像、デザイン方針を定めました。そして、それらに合わせて具体的に導入する機能や施設を検討し、様々な条件を踏まえたうえで図面やCG等により整備イメージを作成しました。



【第3次協議会での検討のフロー図】

第3章 東小金井駅北口まちづくり協議会（第3次）とりまとめ

第1次、第2次協議会で整理されたまちづくりの目標を踏まえ、改めて、第3次協議会で検討した結果整理された整備にあたってのキーワードや目標像、デザイン方針を検討しました。

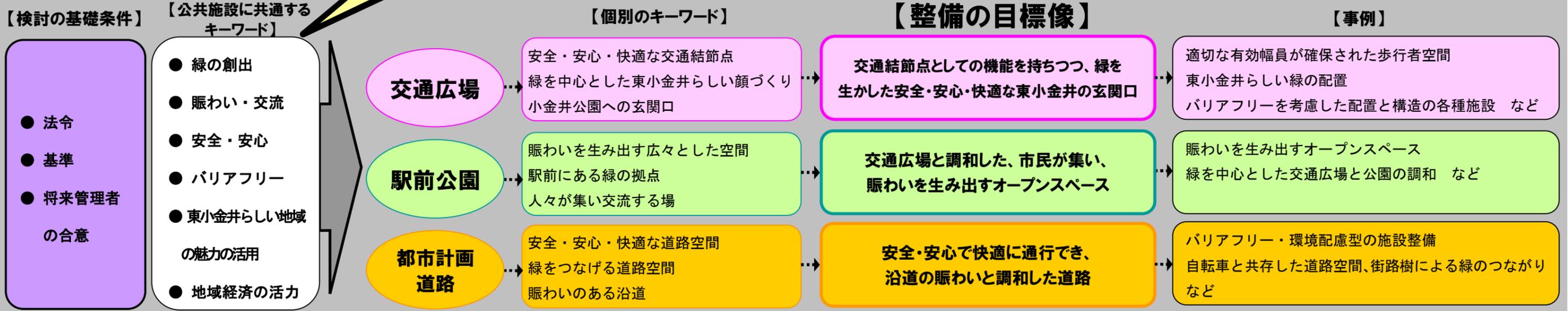
1 交通広場や駅前公園、都市計画道路等の整備の基本方針の検討

(1) 交通広場や駅前公園、都市計画道路等の目標像

まちづくりの目標

「緑に囲まれた落ち着いた落ち着いた暮らしと賑わいが共存するまち」

まちの将来イメージ まちづくり協議会（第2次）での議論のとりまとめ 今回まちづくり協議会で追加したまちの将来イメージ	住民の暮らしと健康を大切にしたいまちづくり <生活者が主体となったまち> <ul style="list-style-type: none"> いつまでも住み続けられる故郷のようなまち 中央線沿線の落ち着いた落ち着いた隠れ家的なまち（現在の沿線にはないまち） なつかしさ、思いやり、癒しを感じられるまち 人々の「暮らしづくり」となる まちづくり <安心・安全に暮らせるまち> <ul style="list-style-type: none"> 人が健康になるまち（快適な散歩や自転車利用ができる） お年寄りや障害者などに対して思いやりのあるまち 放置自転車のないまち 	公園・緑と水と水環境資源を活かしたまちづくり <緑を感じられる駅前空間> <ul style="list-style-type: none"> 交通広場は、駅を降りたら目の前に公園を感じられる公園駅のようなイメージ 駅を降りたら公園や水辺が感じられホッとするまち 駅前でありながらゆとりや潤いがあるしゃれたまち <自然環境と共生し、憩いの場となる街並み> <ul style="list-style-type: none"> 小金井公園などからの帰り道に休憩できる場所（カフェなど）を設置 ビルなどの建物にも緑があり、小鳥や小動物の住む環境共生型のまち 緑を感じる散歩ができるまち <水と緑のネットワークの拠点> <ul style="list-style-type: none"> 親水的な空間づくり 緑の散歩ができ、歩いていて楽しいまち（小金井公園、玉川上水、多磨霊園、野川） 南北の公園を生かしたまち 緑の創出拠点として、緑を生かした駅前整備や小金井公園とを結ぶ緑のネットワークの拠点 他にはない資源（公園など）を取り込んだ一体的なまちの魅力づくり 	地域の交流を育むまちづくり <若者の活力を取り込むまち> <ul style="list-style-type: none"> 若者を取り込んだまち（大学との協働） 学生を吉祥寺などに出さず留めておけるまち 学生の力（ポテンシャル）を生かしたまちづくり（早稲田、吉祥寺などのように） <人々の交流を生み出すまち> <ul style="list-style-type: none"> 四季折々のイベントができ、道路や広場に人が集うまち 歩き（木漏れ日を感じ、人と交われる）、集う（ところどころに休む場所がある）ことができるまち
	<暮らしに溶け込んだ商業空間> <ul style="list-style-type: none"> 駅周辺や道路沿いに、暮らしに溶け込んだ賑わいのある商業空間 <バリアフリーへの対応> <ul style="list-style-type: none"> 交通広場や道路、駅前公園について、バリアフリー化が図られたまち 	<小金井公園の玄関口としてのまち> <ul style="list-style-type: none"> 小金井公園への玄関口として駅から小金井公園までが結ばれたまち <歴史的・文化的資源を活用したまち> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的・文化的な資源を活用した「東小金井」らしいまち <環境負荷の少ないまち> <ul style="list-style-type: none"> 雨水を活用した打ち水で涼むなど、エネルギーに過度に依存しないまち リサイクル材活用など省資源化に配慮した施設づくり 	<次世代へ引き継げるまち> <ul style="list-style-type: none"> 孫子の代に誇りを持って引き継げるまち <市民主導の公共施設管理> <ul style="list-style-type: none"> 住民自らの手で管理し、運営する <地域経済の活力を活かしたまち> <ul style="list-style-type: none"> 地域の企業や商店などの特色を活かした個性的で活気あるまち



(2) 公共施設のデザイン方針

公共施設の計画や設計を進めるにあたり、導入する機能の検討とともに、デザインの方針を決定する必要があります。ここでは、公共施設のデザインを①素材と色彩②環境配慮③緑化に分けて検討しました。



小金井公園＝みどり・自然



江戸東京たてもの園＝レトロ・木材・石材・農



社寺仏閣＝静寂・みどり
・石材



上水・用水＝清らか・水
・みどり



まちなみ＝落ち着き



【地域資源から受けるイメージや素材感】

① 素材と色彩

- 素材は、木材、石材、土などの自然素材等を活用します。
- 色彩は、素材本来の色を基調とします。
- 主に、視覚的に優しい暖色系の色調を用います。

② 環境配慮

- 省エネルギーの製品を活用します。
- リサイクル材や間伐材を活用します。
- 雨水を散水や路面温度低減などに有効活用するとともに、極力地下へ浸透させます。

③ 緑化

- 小金井公園等への玄関口として、ふさわしい樹種を選びます。
- 交通広場と駅前公園のつながり（一体感）を感じるような緑の配置にします。
- 都市計画道路を活用した緑のネットワークを形成します。

2 交通広場の整備イメージの検討

第3次協議会で検討した結果定まった交通広場の導入機能や導入施設、交通広場の整備イメージを整理しました。

(1) 交通広場に導入する機能

【前提条件】

交通結節機能	法令等への適合
歩行者のスムーズな通行	将来管理者の合意

【個別キーワード】

【機能】

【施設整備のイメージ】

安全・安心・快適な交通結節点	防犯への配慮	植栽などによる死角に配慮した植栽の配置や交番の設置など
	バリアフリーに配慮した交通結節点	安全で誰もが使いやすい歩道やバス・タクシー・自家用車の乗降場、分かりやすい案内など
緑を中心とした東小金井らしい顔づくり	東小金井の顔としてのみどり	交通島等を利用した植栽スペースなど
	小金井らしい水循環利用	浸透機能のある舗装、雨水を活用して地域が管理する花壇など
小金井公園への玄関口	小金井公園とのつながりを感じる植栽など	小金井公園とつながりのある樹種を用いた植栽など

(2) 交通広場の計画の考え方

- 交通広場の形状については、都市計画道路との円滑な接続やバスの回転軌跡を確保する観点から、北東側の都市計画道路との交差点からの出入り1箇所とします。
- 歩道については、歩きやすさ、シェルターの設置スペース等の確保のため、駅側の歩道は、有効幅員7m以上、東側と西側の歩道は、有効幅員4m以上を確保します。
- バスの軌跡を検討する際のバスの大きさについては、関係法令上のバス車両の大きさ（長さ12m）では、歩道幅員、交通島及びバスバース数等を十分に確保できないため、バス事業者との協議の上、ひと回り小さいバス（長さ10.5m）とします。
- 歩行者のスムーズな動線を確保するため、交通広場の歩道を滑らかな線形とします。
- 交通広場全体に誘導ブロックを敷設し、障害者用乗降場を駅へアクセスしやすい位置に設置するほか、案内サイン等の設置に際して誰もが円滑に施設を利用できるよう、バリアフリーに配慮します。
- タクシープールの両側に植樹をすることで、コンコースから出たときに見えるタクシーの車両の無機質な印象を和らげます。

- 交通機能の諸元は、バス事業者との協議を踏まえ、下記の表のとおりとします。

【交通機能の諸元】

バス 乗車	2.0 バース	バス車両による軌跡について		
バス 降車	1.0 バース	道路構造令上	設計車両	幅 2.5m×長さ 12.0m
バス 待機	1.0 台		回転半径	12.0R
タクシー 乗車	1.0 バース	バス事業者 協議後採用	設計車両	幅 2.5m×長さ 10.5m
タクシープール	8.0 台		回転半径	8.3R
障害者用 乗降	1.0 台			

- ※ 協議会は市に対し、駅からまちへ向かう歩行者の円滑な動線について引き続き検討を行うことを求めます。長期的な視点から見た将来の交通量やまちなみの変化などを十分考慮に入れ、東小金井の住民や来訪者にとって最も良い計画となることを望みます。

(3) 交通広場に導入する施設

項目	導入する施設
舗装・縁石	歩道舗装、車道舗装、縁石
植栽	高木、低木（または地被類）
修景施設	花壇
サービス施設	上屋（シェルター）、ベンチ（バス停のみ）
管理施設	横断防止柵、車止め
給排水施設	街きよ、雨水浸透ます
照明・電気 施設	車道照明、歩道照明
防災施設	消火栓
案内施設	案内サイン
その他	交番（検討中）、公衆電話

- ※ 交番は、安全・安心なまちづくりの点から、東小金井駅北口に欠かせない施設ですが、協議会としては、「交通広場に設置するのは景観などの点から望ましくない」ので、他の設置位置について検討するべき」と考えます。

交番を設置する位置としては、他に「交通広場に近い宅地内」、「駅前公園」などが考えられます。これらについても十分に検討を行い、可能な限り景観にも配慮した配置となるよう、引き続き関係機関と協議を進めることを市に求めます。

(4) 交通広場等を利用したイベント等の可能性について

今回の協議会では、交通広場や駅前公園等の公共施設等を利用したイベント（フリーマーケットやオープンカフェ等）ができないかという意見もありました。

今後も公共施設等を利用したイベントの可能性について検討していくことが望まれます。

(5) 各施設のデザイン

項目ごとに各施設の考え方とイメージ写真を整理します。

① 交通機能施設

デザインコンセプトである自然素材やリサイクル材を活用し、車止めや横断防止柵には再生木材を使用したものを使います。

また、環境に配慮して照明には長寿命、省エネルギーの LED 照明等を使用します。シェルター（上屋）は、駅舎の屋根に合わせた幕構造、または採光性のよいポリカーボネイト製のものを検討します。また、和風のものなど、東小金井のイメージに合った素材やデザインを取り入れることについても、事業費等を踏まえて検討します。

■シェルター（幕構造）



■参考：

東小金井駅の駅舎天幕



■シェルター（ポリカーボネイト製）



（ポリカーボネイトの明るい屋根構造）

■横断防止柵



（再生木材を使用した横断防止柵）

■道路照明、歩道照明



（LED道路、歩道照明）

■車止め



（再生木材を使用、
頭部は太陽電池式LED灯）

※掲載した写真はイメージであり、今後変更することがあります。

② 憩いの空間と小金井らしさを演出する施設

「緑を中心とした東小金井らしい顔づくり」を推進するため、高木・低木や花壇等の植栽を配置し、再生木材を使用したベンチを設置して緑や自然を感じられる広場とします。

案内サインには駅のテーマカラーを用いる等、駅との一体感に配慮し、分かりやすくバリアフリーに配慮したものとします。

なお、高木・低木の樹種等の詳細は、後述する「5 対象範囲全体の整備イメージの検討」にて紹介します。

■花壇



(駅舎から見やすいよう傾斜をつけた花壇)

■総合案内板、各種サイン



(駅のテーマカラーに合わせたデザイン)

■ベンチ (バス停に設置)



(再生木材を使用)

※掲載した写真はイメージであり、今後変更することがあります。

③ 舗装および歩行者横断部の構造

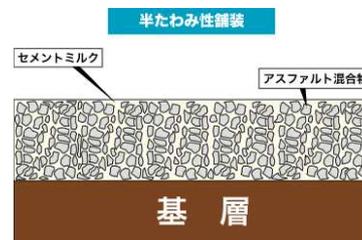
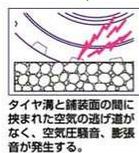
小金井市の特色である水循環利用を促進するため、基本的に透水機能のある舗装を用います。車道舗装には騒音の防止に優れた低騒音舗装を用い、またバス停部分にはわだち掘れ防止の性能を持った半たわみ性舗装を使用します。

歩道部分にはバリアフリータイプのインターロッキングブロックを使用するとともに、視覚障害者誘導用ブロックを連続的に設けます。歩道舗装の色彩は、誘導ブロックとの輝度比に配慮します。

歩行者横断部の縁石には視覚障害者の方が踏んで歩道の端を認識できるようにゴムの突起付きの縁石とします。

■低騒音舗装と半たわみ舗装

低騒音舗装の概念図

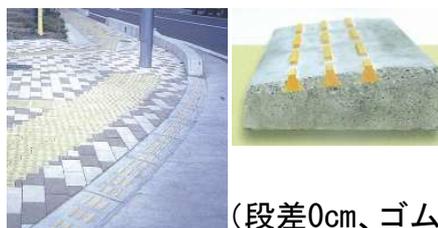


■歩道舗装



(バリアフリータイプの透水性インターロッキングブロック)

■歩行者横断部



(段差0cm、ゴムによる突起付き)

※掲載した写真はイメージであり、今後変更することがあります。

■CGイメージ

※CGはイメージであり、変更することがあります。



交通広場全景（コンコースより俯瞰）



交通広場全景（ホーム正面目線の高さより交通島、交通広場全体を見る）



交差点より交通広場を見る

3 駅前公園の整備イメージの検討

第3次協議会で検討した結果定まった駅前公園の導入機能や導入施設、駅前公園の整備イメージを整理しました。

(1) 駅前公園に導入する機能

【前提条件】

広場（オープンスペース）	法令等への適合
交通広場の緑の補完	将来管理者の合意

【個別キーワード】

【機能】

【施設整備のイメージ】

賑わいを生み出す 広々とした空間	多目的に利用できる 大広場	地域住民が集う賑わいと交流の空間として 多目的に利用できる大広場など
駅前にある緑の 拠点	交通広場とのつながり (一体感)を感じる 植栽のみどり	開放感がありながら緑濃い植栽空間や交通 広場と違和感のないような植栽の配列など
人々が集い交流 する場	防犯への配慮	死角に配慮した植栽の配置など
	道路の歩道と一体感の ある公園周回部の整備	道路の歩道を取り込んだような設えで、歩道 と一体感のある段差のない園路など
	植栽等の美化サポータ ーの活用	地域の企業や住民が管理する植栽など

(2) 駅前公園の計画の考え方

- ・ どこからでもアプローチできるオープンな空間とします。
- ・ 防犯等に配慮するとともに沿道の商店が見渡せるような樹木の配置とし、見通しのよい空間とします。
- ・ 交差点から北西への動線を確保します。
- ・ オープンなスペースを大きく確保し、イベント等にフレキシブルに使える空間とします。



(3) 駅前公園に導入する施設

項目	導入する施設	項目	導入する施設
舗装・縁石	園路舗装	管理施設	車止め
植栽	高木、草地	給排水施設	散水栓
修景施設	花壇（可動式）	照明・電気 施設	園内照明、イベント用電源
サービス施設	ベンチ	防災施設	防火水槽

(4) 各施設のデザイン

① 園路・広場の施設

駅前公園には管理に手間と費用が比較的かかりにくい草地の面積を大きく確保します。草地でも管理をすれば比較的きれいな状態を維持できます。園路舗装は、透水性でバリアフリータイプのインターロッキングブロックを使用します。

■草地のイメージ（梶野公園）



【参考】草地の種類



■園路舗装



(バリアフリータイプの透水性
インターロッキングブロック)

耐性の強い牧草類（クリーピング
レッドフェスク等）とマメ科など
の草本類（シロツメクサ等）の中
から3種類程度混合して播種し、
育成させます。（写真はシロツメク
サです。）

※掲載した写真はイメージであり、今後変更することがあります。

② 憩いの空間と小金井らしさを演出する施設

人々が集まる憩いの空間、小金井らしい緑豊かで落ち着いた空間を演出する施設を整備します。高木の下には木材または再生木材を使用したスクエアベンチやサークルベンチを設置し、人々が緑陰を感じ、憩えるような場とします。また、イベント等も開催できるよう、オープンな空間を確保します。

車止めは再生木材を使用したものを使います。環境に配慮して照明には長寿命、省エネルギーのLED照明等を使用します。イベント等のときには移動できるプランターの花壇を設置し、住民がそれを管理することにより、地域のコミュニティの醸成に役立つ場とします。

なお、高木・低木の樹種等の詳細は、後述する「5 対象範囲全体の整備イメージの検討」にて紹介します。

■スクエアベンチ・サークルベンチ



■車止め



(再生木材を使用、
頭部は太陽電池式LED灯)

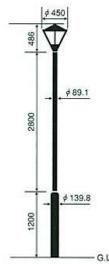
※掲載した写真はイメージであり、今後変更することがあります。

■ 植栽



(移動可能なプランターへの植栽、住民が管理する花壇)

■ 園内照明



(LED照明)

【参考】 デザイン照明の事例



(胴体部分が光るとともに、投光器により原っぱを照らすことができるデザイン照明)

※掲載した写真はイメージであり、今後変更することがあります。

③ 公園管理やイベント利用のための施設

植栽等の管理や、イベント時に利用するために散水栓を設置します。また、イベント時の電源として利用するためのコンセントボックスや回路盤を設置します。

■ 散水栓



(水撒き用・イベント用)

■ イベント用電源



(コンセントボックスや回路盤)



※掲載した写真はイメージであり、今後変更することがあります。

■CGイメージ

※CGはイメージであり、変更することがあります。



駅前公園全景（俯瞰）



駅前公園全景（交差点でアイレベルより）



駅前公園北西より交差点を見る

4 都市計画道路等の整備イメージの検討

第3次協議会で検討した結果定まった都市計画道路等の導入機能や導入施設、都市計画道路等の整備イメージを整理しました。

(1) 都市計画道路等に導入する機能

【前提条件】

交通機能	法令等への適合
防災機能	将来管理者の合意
スムーズな流れの歩道空間	

【個別キーワード】

【機能】

【施設整備のイメージ】

安全・安心・快適な道路空間	バリアフリーに配慮した歩車道分離	安全・安心で誰もが使いやすい歩道
	透水性の舗装	雨水を浸透させる透水性舗装など
緑をつなげる道路空間	駅と小金井公園等をつなぐ街路樹	駅前の緑と小金井公園等の緑をつなぐ街路樹
	沿道店舗等の賑わい補助	オープンカフェやワゴンセールなどの賑わいを演出できるような歩道空間
賑わいのある沿道	植栽等の美化サポーターの活用	地域の企業や住民が管理する植栽など

(2) 都市計画道路等の計画の考え方

① 歩行者等の基本寸法

都市計画道路等における幅員構成を検討するにあたって前提となる歩行者や自転車等の基本的な寸法を以下に示します。道路構造令では、歩道においては3.5m又は2m以上、自転車歩行者道においては4mまたは3m以上確保することとされています。これらの基準を基に、円滑な通行ができるよう幅員構成等を設定します。

成人男子

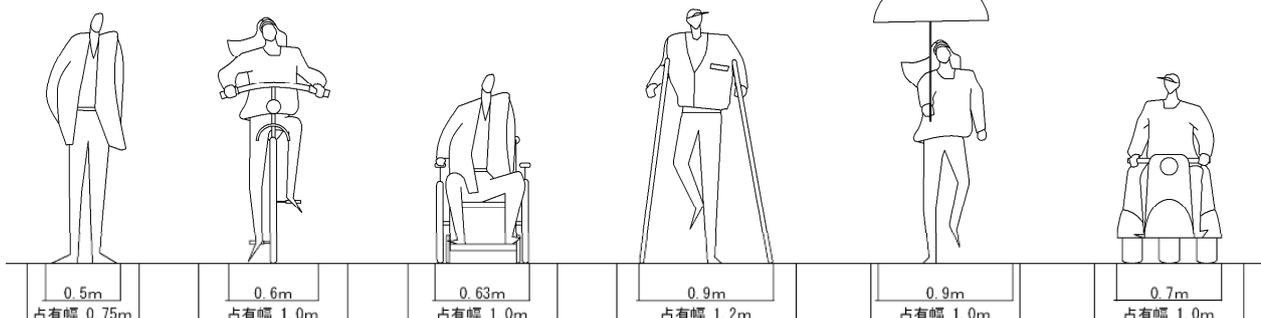
自転車

車イス使用者

杖使用者

傘使用者

シニアカー



【歩行者等の基本寸法】

出典：道路の移動等円滑化整備ガイドライン、道路構造令

② 歩行者と自転車の動線

自転車利用者の多くは駅直近に住む人ではなく駅から少し離れた住宅地に住む人です。現況では自転車駐輪場が駅直近に集中しており、自転車が駅直近に集まりやすい状況です。将来的には、駐輪場は JR の高架下に、東西に分かれて確保される予定となっており、駅直近の自転車は現況より少なくなる見通しです。

③ 歩行者自転車共存の考え方

小 3・4・9 号線（東小金井駅北口線）は、歩道の幅員が 5.5m と比較的広いことから、歩行者と自転車の通行区分を行います。区分にあたっては、舗装の色で分離した案と、植栽帯等で分離する案のメリットとデメリットを比較した結果、舗装の色で分離する案が適していることから、舗装の色で分離を行うこととします。また、小 3・4・16 号線（東小金井駅東西線）、コミュニティ（特殊）道路は、歩道の幅員がそれぞれ 3.5m と 2.5m と比較的狭いことから、歩行者と自転車の通行区分を行わず、自転車と歩行者が共存して通行する歩道とします。

④ 道路植樹の考え方

道路植樹について、小 3・4・9 号線（東小金井駅北口線）においては比較的歩道の幅員が広く余裕があることや小金井公園へとつながる緑のネットワークの形成を図ることから、比較的大きくなる樹木を植樹します。また、小 3・4・16 号線（東小金井駅東西線）は、歩道の幅員が比較的狭いことから、比較的小さい樹木を植樹します。コミュニティ（特殊）道路は歩道の幅員が 2.5m と狭く植樹の余裕がないことから、植樹は行わないこととします。

また、植樹帯案と、植樹ます案のメリットとデメリットを比較した結果、植樹帯が適していることから、東小金井駅北口線と東小金井駅東西線は共に植樹帯とします。ただし、交差点部や歩道の切り下げ部等、周辺の土地利用の状況に応じて植樹ますとします。

⑤ 無電柱化のための地上機器の設置の考え方

都市計画道路では、電線を地中化し、無電柱化を図ります。そのための設備として、地上機器を整備します。地上機器は色やデザイン、設置場所を工夫することでまちの景観に溶け込ませ目立たなくすることができます。

(3) 都市計画道路等に導入する施設

項目	導入する施設
舗装・縁石	歩道舗装、車道舗装、縁石、誘導ブロック
植栽	高木、低木
管理施設	横断防止柵、車止め
給排水施設	街きよ、雨水浸透ます
照明・電気 施設	車道照明、歩道照明、電線共同溝地上機器

(4) 各施設のデザイン

① 交通機能施設

デザインコンセプトである自然素材やリサイクル材を活用し、車止めや横断防止柵には再生木材を使用したものを使います。また、環境に配慮して照明には長寿命、省エネルギーのLED照明等を使用します。

■車止め



(再生木材を使用。

■車道照明・歩道照明



(環境に配慮したLED照明)

■横断防止柵



(再生木材を使用した横断防止柵)

頭部は太陽電池式LED灯)

※掲載した写真はイメージであり、今後変更することがあります。

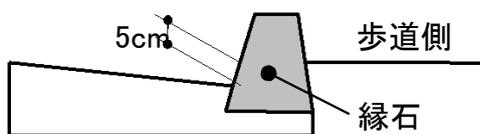
② 歩道舗装および歩車道境界部 (歩行者横断部)

セミフラット歩道にすることにより、車道と歩道の段差を小さくします。

歩道舗装にはバリアフリータイプのインターロッキングブロックを使用するとともに、視覚障害者誘導用ブロックを連続的に設けます。歩道舗装の色彩は、誘導ブロックとの輝度比に配慮します。

歩行者横断部の縁石には視覚障害者の方が踏んで歩道の端を認識できるようにゴムの突起付きの縁石とします。

■セミフラット歩道



■歩道舗装



(バリアフリータイプの透水性
インターロッキングブロック)

■歩行者横断部



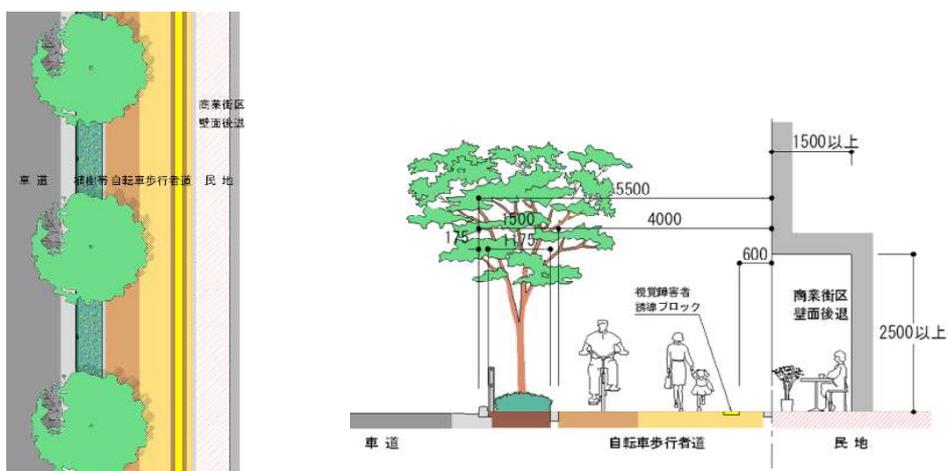
(段差0cm、ゴムによる突起付き)

※掲載した写真はイメージであり、今後変更することがあります。

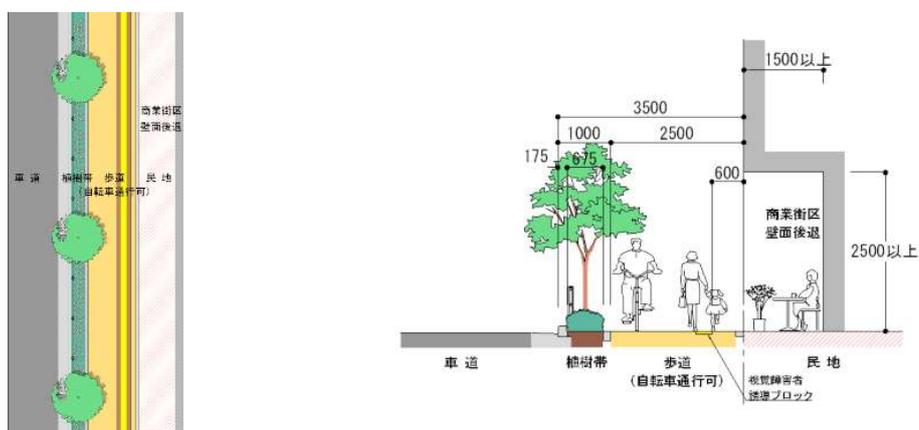
(5) 平面パターンと歩道断面イメージ

歩行者自転車動線や歩行者自転車共存、道路植樹についての検討を進めた結果、定まった東小金井駅北口線および東小金井駅東西線の平面パターンと歩道の断面イメージをそれぞれ以下に示します。ただし、舗装の色や樹木の形状などは、あくまでイメージとして表現したものです。

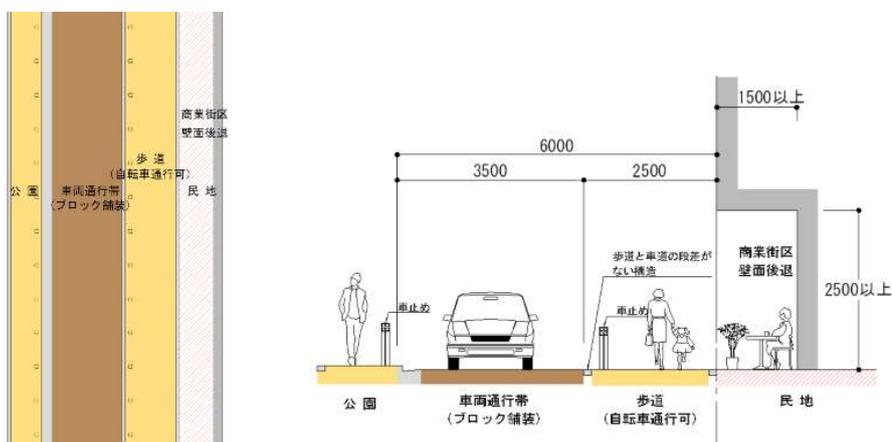
① 東小金井駅北口線 (幅員 20m、歩道 5.5m × 両側)



② 東小金井駅北口東西線 (幅員 16m、歩道 3.5m × 両側)



③ コミュニティ (特殊) 道路 (幅員 6m、歩道 2.5m × 片側)



※植栽や舗装の色等はあくまでもイメージであり、今後変更となる可能性があります。

■CGイメージ

※CGはイメージであり、変更することがあります。



北口線（交差点アイレベルより）



東西線（交差点アイレベルより）



コミュニティ道路

5 対象範囲全体の整備イメージの検討

交通広場や駅前公園、都市計画道路等を含めた検討対象範囲全体を通しての協議会の推奨案を以下に示します。

(1) 舗装デザイン

交通広場や駅前公園、都市計画道路等の舗装はバリアフリータイプの透水性インターロッキングブロックで統一し、一体感を持たせます。アースカラー系のブロックの3色混合の舗装とします。

また、舗装に対する視覚障害者用誘導ブロックの輝度比が足りない場合は、輝度比を確保するためのサイドブロックを設け、視覚障害者の方が誘導ブロックを認識しやすいよう工夫します。

3色混合舗装の事例



西府駅 交通広場

【参考】輝度比に配慮した舗装事例



歩道舗装の色彩によっては誘導ブロックとの輝度比（2.0程度）が確保できません。その場合は誘導ブロックの両側を暗い色のブロックとするなどの工夫をして、誘導ブロックとの輝度比を高めます。

※掲載した写真はイメージであり、今後変更することがあります。

(2) 植栽

① 全体的な考え方

整備にあたってのキーワードである「小金井公園の玄関口」「駅前にある緑の拠点」「緑をつなげる道路空間」のとおり、緑豊かな駅前空間とし、小金井公園へと連続的に緑を配置します。

緑を感じられる植栽とするだけでなく、駅からの商業空間の見通しを確保するよう努めます。

② 樹種選定の考え方

- ・交通広場と駅前公園とのつながり（一体感）を感じる植栽とします。
- ・交通広場、駅前公園ともに、小金井公園の玄関口としてのイメージを持つとともに歴史や地域にゆかりのある樹種とします。
- ・具体的には、小金井公園を代表するような樹種（ユリノキやサクラ類など）や、武蔵野をイメージする樹種（ケヤキ、シラカシ、イロハモミジ、ウバメガシなど）とします。
- ・駅前公園にはシンボルツリーを植樹します。



小金井公園ユリノキ広場



小金井公園サクラ広場



武蔵野のイメージ
(写真は浴恩館公園)

(3) 案内サイン

駅周辺のサインデザインを統一し、目的地までわかりやすく誘導するためのサイン計画を検討します。

具体的には、交通広場や交差点等に案内板や方向指示板を設置します。案内板は、地図で周辺情報を示すとともに、小金井公園や江戸東京たてもの園等の地域資源の情報を掲載します。

また、車椅子利用者、視覚障害者も利用できるよう、誰に対しても分かりやすい案内サイン施設を設置します。

■総合案内板、各種サイン

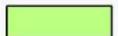


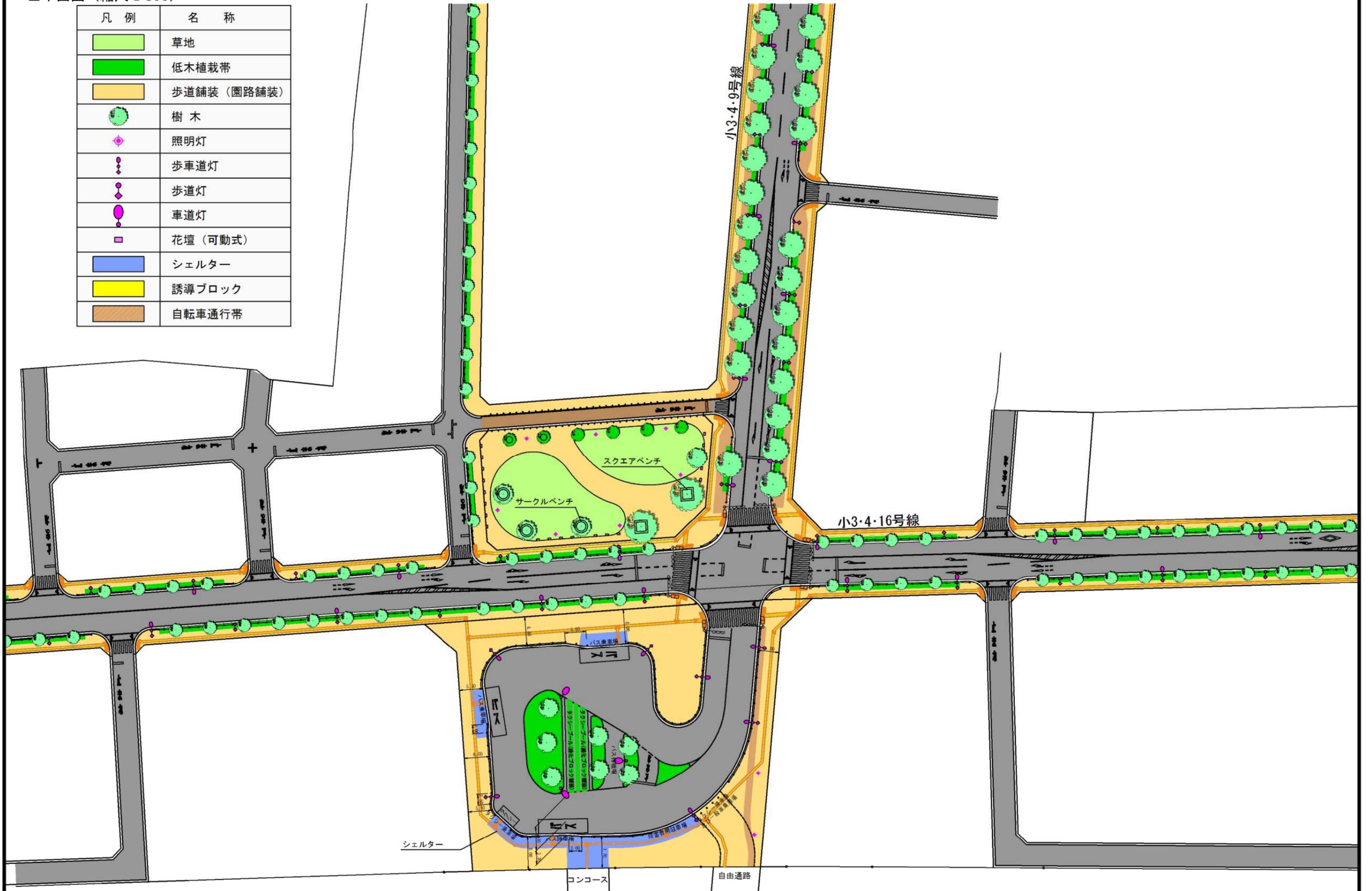
(駅のテーマカラーに合わせたデザイン)

※掲載した図はイメージであり、今後変更することがあります。

計画平面図 縮尺 1:800

■平面図 (縮尺 1:800)

凡例	名称
	草地
	低木植栽帯
	歩道舗装 (園路舗装)
	樹木
	照明灯
	歩車道灯
	歩道灯
	車道灯
	花壇 (可動式)
	シェルター
	誘導ブロック
	自転車通行帯



計画平面図 縮尺 1:800

■緑化イメージ図 (縮尺 1:800)

シンボルツリーとしてユリノキ(落葉)、またはケヤキ(落葉)、ツガ(針葉)等



ユリノキ

ハナミズキ(落葉)等



ケヤキ(落葉)またはサクラ類(落葉)、またはシラカシ(常緑)等



ケヤキ



サクラ類



ケヤキ



ツガ



シラカシ

カクレミノ(常緑)等



イロハモミジ(落葉)等



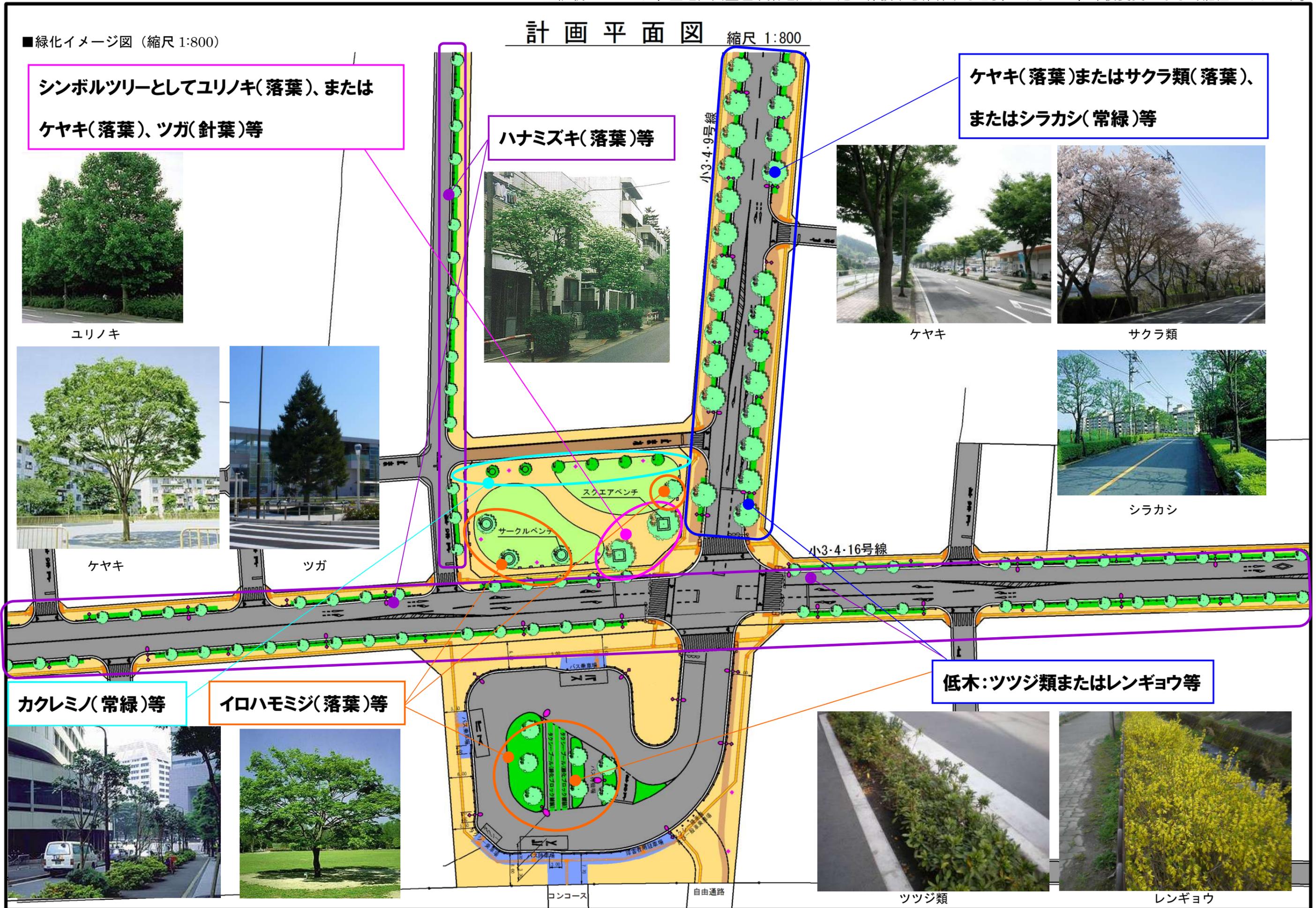
低木:ツツジ類またはレンギョウ等



ツツジ類



レンギョウ



第4章 今後の対応について

1 今後の公共施設の整備について

今回の第3次協議会では、第1次及び第2次協議会において整理されてきたまちづくりの目標を基本に、交通広場や駅前公園、都市計画道路等、主要な公共施設を中心とした整備イメージについて検討しました。

今後は、市がまちづくり協議会での検討結果を基本として、関係法令等の前提条件や関係機関等との協議を踏まえ、整備計画を具体化し、実際に交通広場や駅前公園、都市計画道路等の整備を行います。整備にあたっては、東小金井らしさの実現など、第3次協議会でまとめられた思いを見失わず、設計や工事等の各段階での検証を続けることを望みます。

2 より良いまちづくりについて

安全・安心で住みよい環境づくりや、緑豊かで美しいまちなみの創出を通して住民・事業主・地権者等の方々の地域への愛着を高め、まち全体としての魅力や価値を高めるためには、これらの地域の方々が、「まちを育てる」という視点を持ち、主体的にまちの運営管理に関わるのが重要です。地域の方々が自ら地域の清掃や花壇づくりなどのまちの運営管理活動を行うことにより、それらを手がかりとした良好なコミュニティが形成され、それに伴って快適で魅力的な環境形成につながります。こういった地域の方々によるまちの運営管理については、各地で様々な取り組みが始まっています。

東小金井駅北口では、今後「公園や歩道などの維持管理」、「まちのルール」などを「まちづくり読本」としてまとめるなど、地域の方々による主体的なまちの運営管理について検討することが望まれます。

ルールや方針を定めるにあたっては、地権者をはじめ、多くの地域の方々の参加が望まれます。

また、「まちづくり読本」の内容としては、「土地利用や建物の建て方のルール」、「地区計画等によるまちなみの先進事例の紹介」、「まちを運営する組織づくり」、「交通広場や公園、道路等の使い方」、「公園や歩道などの維持管理」などが考えられます。

交通広場や公園、歩道に設ける花壇等については、整備された箇所から順次、地域の方々による維持管理を行うことも考えられるため、今後早い段階で維持管理についての検討を始めることが必要です。

まちは公共施設が出来て終わりではなく、人々がまちをいかにして育てていくかが問われます。今後、まちづくり協議会が、まちのルールづくりなどの管理運営活動を行う組織の検討やその運営を行う「まち育て協議会」などに発展していくことが望まれます。

3 市への提言について

今回の第3次協議会で検討した内容は、「とりまとめ」として、市に提言いたします。

市は、交通広場・駅前公園・都市計画道路等の整備にあたっては、協議会の検討結果である本「とりまとめ」を生かし、まちづくりの目標である「緑に囲まれた落ち着きある、安心した暮らしと賑わいが共存するまち」を実現するために、責任を持って合理的な取り組みを行うよう求めます。

また、第3次協議会終了後も、市は地権者等の意見を取り入れ、より良いまちづくりを進めることを求めます。